

⑥ 地域の食材を活用した商品開発

1. 研究組織

研究代表者： 池田幸代 （東京情報大学・准教授）

研究分担者： 小早川睦貴 （東京情報大学・助教）

中尾宏 （東京情報大学・准教授）

2. プロジェクトの目的

地域社会とのかかわりの中で実践的・体験型学習を実施し、学生の社会的基礎力の向上に貢献できる教育プログラムを開発する。第六次産業化を目指し四街道市、および千葉市の地域資源を活用して、商品やサービス（観光資源）を生み出す企画提案に取り組む。

具体的には、地域資源としての活用シーズ（野菜や果物など）を発掘するため、生産者や地域の方々を対象としたヒアリング調査を行う。同様に、地域資源の活用ニーズを調査する。その結果、新たな提供すべき商品やサービスとビジネスモデルを生産者及び地域企業に提案する。なお、これまで開発した商品について販路の開拓が課題となっており、そのために千葉市との連携を受けて販売拠点の開拓を進める。このプロジェクトを通じて、千葉市と四街道市との視点から広域での学生活動を実施し、社会人基礎力という観点からの教育を目指す。

3. プロジェクトの実施内容

6月24日（金）25日（土）に開催された福祉施設紹介・販売フェア「大きなテーブル」において、「よつグルメ研究会」主体で商品の販売を行う活動があり、そこに本学学生も参加した。スープカレーや鹿放パン、「よつどきくっきい」、コーヒーなどの販売などを行い、地域の人々との交流を行った。また、同時に商品に関するアンケートを実施した。このアンケートは、エクセルで集計し、解析する作業をすすめた。

8月20日（土）はオープンキャンパスにおいて、プロジェクトの取り組みを説明するとともに、「よつどきくっきい」のアンケートも実施した。9月からは、それまでにオープンキャンパスを通じてとったアンケートの分析をすすめるとともに、新たな商品開発に向けた学外調査によって、情報収集を実施した。商品パッケージデザインや、価格、ネーミング、原材料、販売する場所、商品の訴求する価値などについて調査するために、学生が各自で現地に赴き、写真撮影や現物の収集を行った。また、10月には、学外調査によって得られた成果を報告するための場を設け、情報を共有した。

その後、本学内において11月6日（日）開催予定の「若葉区民まつり」に向けて、学内で無料配布する「よつどきくっきい」のパッケージを一新する取り組みをすすめた。学生からアイデアを募り、「健康的・素朴・親しみのある」をキーワードに、来場者に手に取ってもらえるような存在感のあるパッケージ案を提案した。また、しおりについても、リニュー

プロジェクトちば&四街道

アルし、本学および「よつグルメ研究会」の取り組みと、商品の魅力を伝える内容に改良した。また、これらのデータを学内のプリンターで出力し、事前にパッケージと検品を行った。



写真：若葉区民まつりの配布の様子

写真：配布用に制作したパッケージ

11月6日（日）当日は、若葉区民まつりにおける視察を行った。またその後の11月11日（金）には、「四街道市産業まつり」の出店のための仕込み作業を「よつグルメ研究会」とともに「わろうべの里」にて行った。11月12日（土）・11月13日（日）両日は、産業まつりに参加し販売活動を行った。

12月9日（金）には、下田農業ふれあい館へ訪問し、販売されている商品の品ぞろえや、値札シールの内容、価格設定などを見学した。その後、下田農業ふれあい館における販売を始めるために、2月8日（水）に「みんなで地域づくりセンター」において千葉市の担当者、「よつグルメ研究会」の担当者とともに、今後の打ち合わせを行った。

4. プロジェクトの成果

地域資源としての活用シーズ（野菜や果物など）を発掘するための調査については、学生が自ら地域をまわり、情報収集を行うことができた。地域資源の活用ニーズの調査については、質問紙による調査やインタビューを行った。その分析結果を生かした、新商品やサービス、ビジネスモデルの提案は、次年度において引き続き行うことになった。なお、これまで開発した商品についての販路の開拓は、「千葉市経済農政局農政部」・「下田農業ふれあい館」、および「よつグルメ研究会」との連携が可能となった。次年度6月より販売を開始する予定であり、現在は契約事項の確認中である。学生の学びの視点では、社会人基礎力の養成について、学生についての厳密なデータをとることができなかった。この為、次年度ではより測定が容易な方法で、学生の成長について把握していきたい。

以上